

住友林業グループ 新企業広告

「Good NeighborWood 森と人は、良き隣人になろう。」

住友林業株式会社(社長:光吉 敏郎 本社:東京都千代田区)は、脱炭素をテーマとした新たな企業広告シリーズとして、俳優の小日向文世さん、板垣李光人さんを起用した「Good NeighborWood 森と人は、良き隣人になろう。」を制作しました。その第一弾となる共生篇を、9月30日(金)からテレビコマーシャルと新聞広告で展開します。

■「Good NeighborWood」について

「NeighborWood」は、ご近所や隣人という意味を持つ「Neighborhood/Neighbor」と、森林を表す「Wood」を組み合わせた造語です。「森と人」が、お互いを尊重し、力を貸し合って「良き隣人」になる。そして共に、持続的に生きていく。そんなメッセージを込めています。「森と人」を事業でつないできた住友林業が目指す、脱炭素に向けた経済と社会の新たなかたちを表現しています。

■シリーズ第一弾 共生篇 について

脱炭素をきっかけに、新しい社会のあり方を考える広告キャンペーンの第一弾です。撮影は、兵庫県神崎郡にある住友林業の社有林で行われ、森林を象徴する役として、フレッシュで神秘的な魅力をもつ板垣李光人さん、人間役として、経験豊かで人の様々な想いを包み込む小日向文世さんが登場します。

<TVCM>

共生篇 9月30日(金)から沖縄をのぞく全国でオンエア

<新聞広告>

共生篇 9月30日(金) カラー30段
日本経済新聞 朝刊



<TVCM 共生篇>

かつて木から離れ、便利さを選んできた人間が、再び森林に戻ってくる。そこから物語は始まります。



<新聞広告 共生篇>

「森と人」が微笑みながら、お互いと未来を見つめています。

■今後の展開について

シリーズの扉となる共生篇に続いて、10月7日(金)からテレビコマーシャル森林篇をオンエアします。また、新聞広告においても、森林篇、木材篇、木造建築篇を10月7日(金)から順次公開します。脱炭素の鍵となる、森林の価値、炭素固定への理解、木の利用促進を、事業に紐づいたメッセージで展開し、住友林業の事業がどのように脱炭素社会に貢献していくのかを伝える内容となっています。